

25時行動委員会・富山

通信 5

2015.8.31

25時行動委員会・富山

(090-7744-0122 藤岡)

E-mail:25h.action@gmail.com

Url:http://25h-action.blogspot.jp/

「8・6 ヒロシマ平和へのつどい 2015 検証:被曝・敗戦70年 ——日米戦争責任と安倍談話を問う」に参加して

SR

● 広島へ

敗戦70年のこの夏、列島に照りつける灼熱の太陽を友として、8月4日、5日、6日の3日間、〈8・6 ヒロシマ平和へのつどい 2015〉に参加しようと、広島へ出かけた。魅力にあふれたたくさんの企画が並んでいて、圧倒される思いだった。連日200人前後の参加者が一堂に会したことは、大きなことだったと思う。それを支えた広島の実行委員会の人々は、大変だったと思う。あらためて、敬意を表したい。

「今年は、あまりにも日本の政治がひどすぎる。安倍政権のやり方が、あまりにも低劣、卑怯あまりにも反民主主義的である。ということで、なにかひとつ大きな集会をやるべきじゃないかと考えまして、……この集会をもつことになったわけです。」実行委員会代表の田中利幸さんの、力のこもった挨拶から始まった。

今も、何人かの講師の人たちの表情や話されたたくさんの言葉が、胸のなかを駆けめぐっている。そのなかでも、とりわけ印象の深かった3日目の終わりの集会について書こうと思う。

● 心にひびいた〈声〉——私・たちをうながす〈声〉

武藤一羊さんが、「政治を組み立てる力」ということを話された。

「沖縄への関わりとして、沖縄「支援」というのは、本土における一般的な形ですよ。沖縄「支援」は、僕は必要だと思うし、それはだめだという意見では全くないですけども、「支援」をしていけばいいという問題ではないのです。その問題を、どう解くか。僕は、本土の運動なり政治家なりの「政治を組み立てる力」のなさだと思うんです。……

「組み立てる」というのはどういうことかと言いますと、別の言葉で言うと、「翻訳する力」なんですよ。沖縄のピープルとしての「自決」の問題が、提起されています。そのときに、それを本土の政治としてどういう政治に翻訳していくかという、本土のところで立てることができてはじめて、「連帯」というものができるわけで、それは「支援」じゃないです。「支援」の上に組み立てるものなんですよ。そのところで、それがなくて、いつまでもなくて、しようもなくて、そこから抜け出していないということが、僕の感じなんです。」

私は、この集会に参加して、2015年夏の、この現時点での私・たちヤマトの側の社会運動の力のなさをあらためて感じたことが一番悔しかった。

武藤さんの発言に続いて、沖縄・ヘリ基地反対協議会 共同代表の^{あしとみ}安次富 浩さんが話された。

「僕ら自身も、きちんとした闘いの総括をしながら」沖縄の未来というものをどうつくりあげていくかが問われている。みなさんからの「沖縄、大変だ大変だ」「沖縄かわいそう」ということでの「支援」はやめてほしい。たくさん辺野古に来ました。おそらく、この10年間で10万人くらいの人々が来たと思います。でも、なにも変わらないよ。「そうですねえ、沖縄、大変ですね」って、みなさん言って帰る。これは、「連帯」ではないです。みずから立っている基盤で闘いながら、この国のあり方を問うていって、沖縄の問題とつなげていかないかぎり、変わっていかない

んです。この国を変えることなんですよ！沖縄の未来は、われわれが切り拓いていく。みなさんも、みなさんの立っているところで未来を切り拓いていく。そこで結合しなきゃいけないんですよ！」

「はるばる沖縄からおいでになった安次富さんに、私・たちヤマトの人間が、未だにこういうことを言わせてしまっているのが、悔しかった。なによりも、自分に悔しかった。

2011年この列島に、3・11/12が出来る。ただちに私・たちにやってきたのは、沖縄—福島—私・たちと連なる〈声の蜂起〉を！という念いだっただ。その年の5月にスタートさせた「沖縄セミナー・2011 沖縄〈と〉私・たち」で、私・たちは、〈と〉をどのように運動させるのか問おうとした。

それから4年、敗戦／戦後70年の今年、私・たちは、「敗戦／戦後70年と私・たち」という問いを、あらためて「沖縄〈と〉私・たち—応援の〈と〉から応答の〈と〉へ」という問いとして立て、〈ラウンドテーブル・2015〉をスタートさせた。それは、「取り返しのつかないことをいかに取り返すのか」という、私・たちの積年の念いの正念場に、みずから立たせようとするのである。

沖縄〈と〉私・たち——その〈と〉が応答の〈と〉として運動するとき、言い替えれば、私・たちの「21世紀の安保闘争」が「日本(の構成的)解体闘争」の地平を拓くとき、私・たちは、はじめて沖縄に対する「応答責任」を果たす路を歩いていることになるのだろうと、遠く思いを馳せ、胸をふるわせた。それが、2015年私・たちの春だ。

武藤さんや安次富さんの愛すべき人柄がにじみ出て200人あまりの参加者でいっぱい会場は、終始なごんでいた。しかし、私・たちはそれだけで良かったのだろうか。

「私の夢は、軍隊をなくすことです。…アジアとどうやって向き合って、信頼を取り戻すか。」そのことが自分にとってとても大切なこととして話された。「無責任の体系という、日本社会のイメージがある。…どんな人もなんらかの判断をして、誰かのいのちであったりなにかに被害を与えていても、そこが問われることがないままにきているという感じが、すごくします。…決めた人がちゃんと出てきて、「私が決めたけれど、これは間違っていた」というなんらかの説明責任というものが全く果たされないことが多い。…加害のグラデーションをはっきりさせていくことが日本の今の社会で大事なことだと思います。」すっきりしたきれいな声が心に届いた。

膿をすべて吐き出してゼロからモラルを立てなおすということ。本当に「反省」するとは、どういうことか。都合の悪いことは公表しないで、だまし続ける。見せかけにすぎないことがあふれている。その場をやり過ごすだけでは、なにも変わらないのだと思う。

「全体をどう動かすかってことで、責任をもって政治を組み立てること。(戦後日本では、)そのことができなかったんですね。その結果、どういう状況になったかという、足りないところを心情とか決意とかで補ったんですよ。「だから、どうか」ということを言わないんですね。それを言う文化がないのです。僕は、そこが最大の、これから超えるべき最大の問題だと思いますね。」と武藤一羊さんが言った。

この集会の締め言葉となった、実行委員会の田中利幸さんのあいさつも、あたたかみのあるものだった。「日本の無責任システムと闘っていくためには、こちらがきちんとした責任感をもつこと。私・たち運動の側が、私・たち自身の自立心と責任感をもつ。きちんとした責任感を私・たち自身が創り上げていって、それを自分の力とする。そういうことがないといけないんじゃないか、と思います。」

会場から、「(武藤一羊さんの、戦後日本国家の三原理のひとつである)「米国の覇権原理」というのは、いまいち分からないところがありまして、…私は、オバマの演説とかを見るのが趣味で、…「米国の覇権原理」について、オバマになってからのリーダーシップは、もう少し肯定的に捉えてもいいのではないのでしょうか。」という問いかけがあった。

それに対して、武藤一羊さんが応えられた。

「米国の覇権原理と言っているものはですね。軍事原理に関しては、アメリカの覇権というのは恒久性があるんですね、民主党になっても共和党になっても変わらない部分というのは、おそらく8割くらいあるんですね。もちろん、政策的にはオバマは“核兵器廃絶の世界を”と申しだしているが、これは軍事的な意味がないわけでは

ないんだけど、だからといってなにが変わったかという、ほとんどなにも変わっていないですよ、核政策については。

ですから、そういうものががちりと日本国家のなかに、構造的に組み込まれている。つまり自衛隊というのは日本国じゃ全然ないわけで、仮に安倍が憲法改正に成功してですね、日本国軍に、と言ってみたところで、それが完全にアメリカから断絶して、独立した核戦力をもって、かつての日本帝国みたいな軍事的独立性をもつ、というふうなことになるのではない限り、そういう可能性が全くないとは僕は言わないですけども、非常に少ないです。僕は、恒久的な、アメリカの軍事的な日本国家の内部化と言いますか、それは変わらないと思います。

太平洋へのシフトというのは、2000年の頃にクリントンがやってみて、ブッシュになったので中断したんですけども、当時から言っているんですよ。かつての2000年当時の中国の関係と現在は全く違う関係ですから。オバマの場合には、特にすごい戦略的な太平洋シフトというものを考えているわけです。そのなかで日本の軍事力というものを、韓国とかオーストラリアとかすべて総合的に運用しようということですから、そこにはポジティブな側面というものをみることにはできないと思っています。

ですから、三原理からいくと、アメリカの覇権原理と憲法平和主義原理が共存するということは、ないです。なぜかという、安倍的なものはですね、結局岸の時代からそうですけれども、アメリカの支配のなかで地位を上げるという路線以外のことは、今のところ考えることができない状態にあるわけです。

そういう意味では、つまり、大日本帝国の継承原理を主張すればするほど、その代償として強くアメリカにこびを売って、アメリカを喜ばせる。それを倍増していかないと認めてもらえないわけです。ですから、それは完全に罠にかかる。アメリカがますます利用しやすいようになる。そういう関係が存在することになる。」

会場からのたったひとりの問いかけに対して、大まじめに真摯に持論を返された武藤一羊さんの姿には、深く心をうたれるものがあった。

ご高齢の身でありながら、焼け付くように暑い真夏の空の下を、遠くから足を運んでくださった武藤一羊さんの発言をもうひとつ記したいと思う。

「おそらく9月3日ですか？中国統一戦線勝利の軍事パレードをやるかといっている。あれを安倍は非常に歓迎していると思います。つまりそれだけ怖いことであって、そこに「抑止力」論をかませてください。「抑止力」論を中心に立てて、乗り切ろうとするに違いない。・・・「抑止力」の問題というのは、いろんな攻め方があるんでしょうけれども、そもそも「抑止力」というものは、「核抑止力」であってですね、それは、日本を守る、とかいうことと全く関係のない話であること。それから、沖縄の海兵隊には、「抑止力」は全く関係ないわけです。



ですから、「抑止力」論というのをですね、徹底的にいろんな形で打ち破ることを一斉にやったらどうかと思います。知恵を絞って、パンフレットやメディア、インターネットでひろげられるものをつくったらいいなと思います。」

一度だけ、武藤さんが言葉につまって次の言葉を探される場面があって、武藤さんは照れ笑いされていた。そのときの会場のしんとした数秒間が、妙に新鮮だった。私・たちにとって、今、言葉を探す力がとても大事なことのよう思えた。

集会が終わりかけた頃、会場から、「一言だけどうしても言いたいです」と手を挙げた女性がいた。「私、「在日」コリアン、自分では朝鮮人と昔から思っているんです。・・・「在日」のなかにも、連帯できる仲間がいると思うんです。隠れた「在日」たちが、しんどい思いをして生きていることを、もっと分かって・・・。」細い声のひとりの女性の勇気ある〈呼びかけ〉は、時間のない慌ただしさのうちに消えていってしまったかもしれない。けれども、新しい景色をかいま見せてもらったような気がして、私の胸は遠いところで小さくふるえていた。

ずっと、こぶしを握りしめていた。

「九条護って、安保廃棄して、米軍基地出ていってもらった後の日本どうすんのかっていう代替案に、誰も応えられないでしょ」と、上野千鶴子さんが言った。——そのとき、私は、「はい」と手を挙げて、私・たち〈25時行動委員会〉のいだいている〈夢〉を語りたかった。決して「代替案」などではなく、私・たちの列島社会の未来像の構想力の力なんだ、と言いたかった。実際にはなにも言えなかった。私・たちのはるかな〈夢〉を、胸にそっとしまった。もっと力をつけなければ、・・・もっとなかみをともなって言えなければ、ないも言ったことにはならない・・・もっとふくよかなものにしなければ・・・そんな思いを、ずっとかみしめていた。



敗戦70年、この夏のはじめに、私・たちは〈25時行動委員会〉の旗を掲げた。2015年の広島で、たくさんのエネルギーをもらってきた。数日後、私・たちは、富山駅前ですトリートパフォーマンスを決行した。夕闇のなかを、黒地にイラストが入った〈25時行動委員会〉の旗をもつ手がうれしかった。さらに高く、私・たちの旗を掲げよう。

(なお、この広島の営みについては、いずれ記録集がつくられるだろうが、2015年の夏、わたしの心にひびいた〈声〉——言葉を、周囲の人に少しでも伝えたく、私のメモを頼りに記してみた。)

8・6ヒロシマ平和のつどい2015での 武藤一羊さんの議論に触発されて

MT

1 具体的な外交的手順を踏むということ(武藤さんのレジュメより)

- (1) **宣言**—平和主義原理を、国境を越えて社会的に共有される原理へと具体化することを宣言し、実践する
 - ① 帝国の侵略と植民地化の過去を清算する決意を示し、平和主義原理を現状の中で具体化することを宣言する。
 - ② アジア・太平洋を巡る米中の覇権主義、さらに複合覇権主義を批判し、どれにも与しない→軍備による抑止力概念の放棄を宣言する。
- (2) **条約交渉**—対中国、米国、北朝鮮の交渉、そして沖縄の非軍事化の交渉を同時に進める
 - ① 中国と非戦条約締結交渉を、米国と共に沖縄を非軍事化し、同時に日米安保を友好親善条約に置き換える交渉を開始する。米国が北朝鮮との戦争状態を平和条約によって終結させ、非核化と南北融和を促し、東北アジア非核兵器地帯の創設へと進む。
- (3) **自衛隊の再編**—この過程で自衛隊は国際的な災害救助隊に再編する

私たちが拠って立つ思想的基盤は、それが合憲であれ違憲であれ、自衛のための戦争、自衛のための軍備という考え方そのものを否定するところにあるのではないか。・・・最終的に武力侵略に直面したらどうするのか。・・・無抵抗に降伏すること、〈占領軍〉を黙って受け入れること。想像するのもおぞましいことだが、戦争をするよりはるかにましだと私は考えている。憲法9条の制定者はこのような極限状態は想定していなかったかもしれない。しかし現時点で正当な解釈のもとにこれを擁護しようとするものは、そこまで踏み込んで発言をすべきであろう。・・・どうもできない、何もできない、そういう地点でじっと立ち止まる以外に

はないのだ。とりわけ、〈国連軍〉とやらが〈侵略者〉を撃退しにやってくるなどとは、一切期待すまい。むしろお断りしよう。そんな戦争に巻き込まれることをすべて拒否するところから私たちは出発したはずなのだから。戦争は戦闘員以上に住民に多くの被害を与えることは、近年の戦争でよく知られていることではないか。それぞれの生活の地点で一人一人が、わずかな抵抗を出来る範囲でする以外にない。…確かなことは、未来の支配者に対する抵抗の力は、現在の支配者に対する抵抗の力と相関関係にあるということである。…今抵抗の砂をまかないものが、将来抵抗の砂をまく可能性は小さいのだ。…

(海老坂武「反軍備派宣言」1995.10.29 より抜粋)

- この枠内に抜粋した文章は、敗戦／戦後50年に書かれた「反軍備派宣言」という文章である。つまり20年も前からすでに言われていたことである。しかし、今ほどこの「反軍備派宣言」を明確に原理として、原理次元で政権と対決しなければならない時代はない。今からでも遅くはないはずだ。

2 「(絶対的)平和主義」を原理とする外交の手順とは(武藤さんを踏まえて)

(1) 「個別的自衛権」の放棄を

「積極的平和主義」は、「個別的自衛権」を超えて「集団的自衛権」まで自衛のための交戦権としてこれを認めるものである。それは、米国の要請に応え、新しい安保法制として具体化されている。これに対し、野党側は法案成立に反対しているが、敗戦／戦後70年という現在の時点で、議会内のすべての政党は、「個別的自衛権」を認めるまでに至っている。いったい、自衛のための交戦権を認めた上での戦争放棄・平和主義とは何なのか。開戦の大儀がいつの世も自衛のためであることは明白であり、軍備を持つ以上はそれを行使したくなるのも道理。「普通の国になる」や「アジアのリーダーになる決意」も、いつか来た道ではないか。

(2) 軍備の放棄、安保体制の廃棄を

アメリカの軍事的覇権主義にとっては、日本国にはさほど興味はなく、沖縄に軍事拠点を置くことにこそアジアの要石として大きな意味がある。その自国の覇権主義体制について、沖縄の付属品程度にしか過ぎない属国日本ごときに口出しされるいわれはないし、聞く耳は持たないだろう。それを承知の上で、なおも米国の意向にたてつくには、徹底した軍備の放棄、つまり安保体制廃棄の道を選ぶしかない。自衛隊の解体や核軍備につながる原発の不保持、これらはその意思表示として欠かせない。

(3) 「外交」の主体を国家から「列島住民」へ

「瓶の蓋論」からすれば、米国の軍事的支配から日本国家が自立することを、アジア諸国は恐れることだろう。現状では軍事・外交は国家を主体として進めざるを得ないが、それを進めつつ、同時に、列島住民は、国民国家の解体と「列島住民」でつくる列島社会の構築に手をかけなければならない。「(絶対的)平和主義」を原理として実践する過程にももちろん「外交」はあるが、それとて「国民国家外交」である必然はない。やがては、列島社会住民的「外交」で、琉球列島住民ともアジア大陸・朝鮮半島住民とも結び合うのだ。

怒りと笑いの街頭アクションをさらに繰り広げたい

HM

「戦争は平和、平和は戦争？いや、そんなはずはないだろう！」——8月8日(土)の夜、毎年夏の恒例の「富山祭り」の雑踏の中、私・たち「25時行動委員会・富山」の主催する街頭パフォーマンスの音が響き渡った。今回の街頭アクションでは、ディレクター役のメンバーによる気合いの入った監督の下、何度もやり直ししながら練習を重ねた「成果」のパフォーマンスを、自分たちで編曲したBGMを入れて街宣車のスピーカーを通して「富山祭り」で賑わう富山駅前を目抜き通りで流しながら、およそ1時間デモ行進を行った。



安保法案自体の問題点は今さら言うまでもないことだが、その審議の間にも、自民党若手議員による党本部での勉強会の講師の「沖縄のマスコミはつぶせ」発言や、自衛隊・統合幕僚本部による安保法成立を前提とした自衛隊派兵マニュアルの作成、安倍の「応援団」のある若手の自民党議員の「戦争に行きたがらない学生はエゴ」発言ツイッターとその数日後に発覚した同議員による不正な政治資金集め等々、どれをとっても本来、内閣が倒れてしかるべきスキャンダルが続いている。かつて1つの法案の審議の過程でこれほど不祥事が連続したことがあったのだろうかと思うのだが、まさに「無知は力」であることを痛感せざるを得ない。それに対して、私・たちの側は、こうした連中をのさばらせてしまっていることや、彼ら/彼女らが権力を握り続けることに何の歯止めも生み出すことができていないという怒りと「恥」の感覚を、自らのアクションの原動力にするしかないのではないか。

「手前味噌」ではあるが、そのように笑うしかないと同時に、笑うに笑えない事態を引き起こしている連中を笑い飛ばしながら、同時にそこに確実に私・たち自身の怒りを込めるような街頭パフォーマンスを、今回のデモでは行うことができたように感じている。今回、「富山祭り」の「歩行者天国」のため、2キロメートル足らずの非常に短いデモコースとなった。その分、時速1キロになるかならないかの非常にスローな速度のデモだったが、それに対して警察から特に規制されることはなかった。そうした速度でもできるんだということが、今回のデモでは分かったように思う。また、全員で共通のスローガンやシュプレヒコールを唱えることに軸を置くのではなく、今回のように街宣車のスピーカーから音声でのパフォーマンスを流すというスタイルにすれば、参加者の多少に関わらず、それなりの形をつけることができるということも、私・たちにとってひとつの発見であった。

富山の市街地の街頭は、「富山祭り」のような行政主催のイベントか、せいぜいで既成の「革新」政党や労組のデモが時々行われる程度だが、このような状況に対して、今後も笑いと怒りを込めた街頭パフォーマンスを元氣よく繰り広げていきたい。同時に、それが「呼び水」となって、「これくらいなら、自分にもできそうだ」とか、「自分たちの方がもっと面白いことができるぞ」といったように、更なる他のアクションがこの富山の沈滞しきった街頭で賑やかに行われるようになれば、というのが私の「夢想」である。なお、私・たちの街頭アクションの動画は「25時行動委員会・富山」のブログにアップされている。

安倍の話法「ダブルスピーク」をこき下ろせ！

MT

●NHK国会中継を観ている。安倍首相の振る舞いは、オーウェルの小説「1984」に出てくる「ダブルスピーク」そのものを地で行っている。「話すことは真意を伝えないこと」「丁寧に説明することは同じ言葉を繰り返すこと」なのだろう。言葉を軽んじているのか、いや、そうではない。言葉の持つ意味を収奪しつくすつもりなのだ。そう思って憎々しげに観ている矢先、今、安倍は「そんなこと、どうでもいいじゃん」と自席でヤジを飛ばし、そのせいで国会が紛糾した。議長席に集まって協議している野党の姿は、どこか茶番じみでいて、全てに安倍のペースである。

●「戦争は平和？—平和は戦争？」これは、「積極的平和主義」に対する本質的な批判である。だけど、「総がかり行動」で一点共闘し「戦争法制反対！憲法を守れ！」と唱えるだけでは、状況に対するいかんともしがた

さ、その空疎さにおいて釣り合い、結局は阿倍のペースにはまってしまわないか。「ダブルスピーク」か「～反対！～守れ！」か、選択肢がそれだけだと、やっぱり数の力に阻まれ、カウンターを狙う言葉の方が負けてしまう。

●街頭デモでもそう。10万人で国会を包囲するのはいいが、100万人でない限りは、容易に量が質に転化しないことは、悲しいかな、この間の反原発官邸前行動が証明している。まあ、もともと虫眼鏡でのぞかなければ見えないような地方のごく少数派のぼくらは、量は考えない。はじめから質を目指すぜ。

というわけで、ぼくらは通信2, 3に掲載した「告知」を表し、もう一方で街頭宣伝用に「積極的平和主義の歌」を作り、8月8日に街頭デモを、9日に街宣を行った。

●さて、その「歌」である。阿倍の「ダブルスピーク」を象徴する「戦争は平和？－平和は戦争？」を頭の中でリフレインしているうちに浮かんだのは、RADWINPSボーカルの野田洋次郎君の、あの正確な早口である。ホントはぼくが、「RADふう」に歌いたかった。デモテープまで作ったが、ぼくの仲間の二人の役者ぶりにはかなわなかった。RADを知らない二人は、まったくテメエ勝手にリズムを無視して歌う。しかし、「RADふう」のぼくのボーカルより、はみ出している分だけ訴える力がある。まさか、RAD風ハードロックの旋律に乗った凸凹漫才のような彼らの言葉が、街宣車のスピーカーから流れ、富山の夜空を切り裂く日が来るとは……。感無量。

●これが、ぼくらなりの表現である。歌詞は本誌に載せるが、ユーチューブに「積極的平和主義の歌」としてアップしているので、実際に一度聴いてみてほしい。阿倍の「ダブルスピーク」を思いっきりおちょくり、こげにして、こき下ろしている。読者の皆さんも、面白いから一度聴いてみてほしい。そして、ロコミで流行らせてほしい。

P.S. 改訂版ができた。「積極的平和主義の歌バージョン2」である。矢継ぎ早のリリースである。こちらもぜひ聴き比べてほしい。

パフォーマンスに参加してみて

YT

●デモに参加するのは2回目である。1回目は「どいね原発」のデモで、日曜の昼間に金沢の街中を20名弱で練り歩くのに虚しさを感じた。

あと、オーストラリアに留学していた頃に政府の難民政策を批判するデモに3回ぐらい行った。大学のストのピケに参加したり、イスラエル支援しているチョコレート店に抗議に行ったり。今思えば何であんなに街頭行動に参加していたのか。多分クソ田舎に生まれ育って、シドニーで初めて都会暮らししてのぼせたのだ。

●で、今回のパフォーマンスであるが、始まる前私はかなり神経質になっていた。私は自分が批判されたりバカにされるのが我慢ならない人間なので、今回の「25時行動委員会」の宣言とも言うべき朗読が反感を呼ぶことを恐れていた。少なくとも平均的日本人(笑)にとっては耳障りな内容のはずである。しかし杞憂だった。なぜなら殆ど誰も聞いていなかったからだ。

富山人は反動的だと友人(長野県民)が言っていたが、反動的なものにも我々のところへ人が寄って来ない。遠巻きに奇異に感じていた人は、いたろう。写真撮って「キモイ奴らがいる！」とツイッターとかに流した奴はいたかもしれない。

●その後のデモは楽しんだ。「25時行動委員会」渾身の曲である「積極的平和主義」のリズムにのって。音楽は街頭行動では大事。シドニー大学のストではブラスバンド隊がいた(その頃流行っていた『江南スタイル』を演奏していた)。あと、街頭じゃないが、かつてネグリ来日(彼は入国拒否されたが)の際に、東京芸大の講堂でブラスバンド隊が南米の抵抗歌を演奏してそこに集まっていた人々が踊っていた記憶がある。あの熱気は革命の熱気に似ているのだろうか。私がリズムにのる楽しさを知ったのはその時。

どうせ見てないだろうがノロノロ歩きながら持っているプラカードを高く掲げる。私は政治家の下劣さにはうんざりしていたが、今回の安保法制でさらに下劣になることができる連中がいることに驚いた。貴様らの好きにさせるか。あがいてやる。

●今回のデモで印象に残っているのは、若い男が「この左翼が！」と吐き捨てて路地裏に消えていったり、中年のおっさんが「お前らまだいたのか！」とすごい形相でデモ隊の近くまで来ていたこと。無視されるよりは何らかの反応を引き出した方が良いでしょうが、神経質な私は彼らの反応に心臓がキリキリしたと同時に、「愚かな奴らだ」と思った。

そういえばシドニーの難民デモの時に、その地のアナキストと「Burn the Prison」と書かれたバナーを持って歩いていたのだが、すれ違った女性に「なんてバカなことを言ってるの!？」とかなんとか(早口の英語のため詳細不明)言われたなあ。

少なくとも私は対話のためにデモに参加しているのではなかった。相手の主張など知ったことか。どうせ主張なんて持ってないんだろ。お前ら我らの正しい主張を聞け。理解できないなら無視しろ、去るがいい。私は自分が気持ち良くなるためにやってるんだ。文句あるか。

●デモの交通整理には若い警官が来ていた。ベテランは同日の富山まつりに駆り出されていた模様。私は、この若い警官も自身の持つ力への陶醉から自由ではないだろうな、と思った。他人を意のままにできる権能を持ちながら、それに陶醉を感じない人間など一人もいない。

奴らは特権階級であるが故に不可触である。

●デモは何のためか。直接人に影響を与えはしない。3.11後の運動業界で「デモで社会を変える」とかなんとか言われていたことがあったみたいだが、そんな簡単に変わらんだろ。

深く考えなくて良い。もっと単純なのだ。自らの身体で自らの意志を表すこと。ネットに書き込んで悦に入ることよりも遥かに意味がある。誰にとって？ もちろん私にとって。

8. 8街頭アクションを終えて

FA

●8月8日、「25時行動委員会」として初めての街頭行動に臨んだ。それはどんなにちいさなものだとしても、「25時行動委員会」としての政治性を、積極的に表現するという意気込みで貫かれるべきものだったと思う。しかし、当日の進行責任者だった私は、まったくそのようにふるまえてはいなかった。そのことを率直に反省したい。

●その日の集会場所、富山駅前の「α-1」前広場に集まった人々を、私は集会が始まってもなかなか集中させることができず、その進行のまずさを、習い覚えたやりかたで取り繕おうとしてしまったのだった。そのために、途中で不要な発言を間に入れてしまい、自分たちなりの政治表現の場を、台無しにしてしまったのではないかと、日没直後のあの空間を、なぜもっと〈異化〉することに徹するよう心が向かなかったのかと、今も悔いている。

●一方、その後のデモ行進は、従来のデモとは違う〈異化〉作用を、富山駅周辺の人々に向けて発することができたと思う。スピーカーから繰り出されるラップ調の言葉への、人々の好悪の感情がストレートに伝わって来たからだ。このパフォーマンスに掛け合い役の一人として私も参加した。デモの間、ずっとそのパフォーマンスが街頭に流れていく。スピーカーから流れてる自分たちの声を聞いて、ぽかんとデモを見ている人達。その人達の表情を、そのデモの中から見ているというのは何とも不思議な感覚だった。いつも見慣れた街の表情が違ったものに体感できる。これこそストリートパフォーマンスの真骨頂だろう。

●この8月29日にも、25時行動委員会は街頭行動に取り組む。8月8日と同様に夕暮れ時の行動だ。ちなみに夕暮れ時のことを「誰ぞ彼どき」、とも「逢う魔がどき」ともいうそう。向こうから来る人は誰なのか？知っている人かちがうのか？此方のことはどうなのか？……………このたそがれ時こそ、日常を〈異化〉する政治表現を行うのにふさわしい時(まさに25時?)かもしれない。私・たちの持ち味は、小回りがきいていろんな表現に挑戦でき、〈異化〉すべき事態に即座に対応すること。そのためには、何よりもまず自分自身を〈異化〉することに挑戦しなければならないと思う。

「積極的平和主義」(歌：街宣用Aバージョン)

積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義

安保法制は戦争法制—戦争法制は平和法制 安保法制は戦争法制—戦争法制は平和法制

どちらもおんなじかっ? いやそんなはずないだろうっ

戦争は平和—平和は戦争? 戦争は平和—平和は戦争?

戦争は平和—平和は戦争? 戦争は平和—平和は戦争?

どちらもおんなじかっ? いやそんなはずないだろうっ

積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義

寄—り—添—う—ことは 肅々と基地をつくること

沖縄に寄り添いながら 肅々と基地をつくるって?

沖縄の—新聞は つ—ぶ—さ—な—あかん

マスコミは 圧力かけて こらしめ—てやりましょう

こら 今のは 俺じゃない こりゃ 応援団の与太話

でも あんたの ホンネやろ いや げ—ん—ろ—んの自由の範囲さ—(2小節無言)



積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義

ポツダム宣言は? つ—ま—び—ら—かに知りませ—ん

ポツダム宣言ねえ—? でもレジームチェンジって言っちゃたし—

先に手を出す平和主義か? 先になぐって黙らせる?

いや こぶしを握って構えるだけさ どうだ強そうに見えるだろ?

お前誰かに狙われてる? まあ誰ってはっきり言えないけどね

お前誰かに嫌われてる? まあ、そういうこともあったかな

お前誰かに謝罪しないの? それがいろいろあってねえ

お前誰かに守られてんの? それがそうでもないみたい

ほらお前の回りにゃ誰もいないよ? そういう見方もできるわな

お前 隣と話してみたか? … 話せてない

…「だったら、平和主義は、こぶしじゃなくて、言葉が大事なんじゃないの?」…

トントントン トントントン それが

積極的平和主義 = とんちんかんな平和主義? 積極的平和主義 = 先—に手を出す平和主義?

積極的平和主義 = 言語矛盾の平和主義? 積極的平和主義 = 反省のな—い平和主義?

ドン! …ダメだこりゃ!!

「談話」コント（「3分クッキング」バージョン）

えー我が国は 先の大戦への 痛切な反省の上に立ち 戦後は 平和国家として
奇跡の経済発展を遂げ 次々と独立するアジア諸国のモデルになりました

（ここで、3分クッキングのテーマの出だしが入る）

ええーと 今のがプレーンヨーグルトです 少し自慢げで しょっぱいですかね。

ええーと ここにですね

「植民地支配と侵略」という言葉を軽〜くまぶして、手早く掻き混ぜてください。

そして冷蔵庫で冷やしてから「心からのお詫び」をちょこんと添えると・・・

ジャン！！アジア向け「談話」ヨーグルトの・・・完成です。パチパチパチパチ

おいしい、ちょっと、これ、トッピングが合わなさ過ぎて、アジアの皆様にお出しできないよ。

あれっ、ちょっと困るよ。砂糖と塩まで間違えてるぞ。 もう一度作り直せ〜。 はいッ。

男 晋三 戦争道（歌：街宣用Bバージョン）

戦争は平和—平和は戦争？ 戦争は平和—平和は戦争？

戦争は平和—平和は戦争？ 戦争は平和—平和は戦争？

止メテクレルナ オッカサン 背中ノ 日ノ丸 泣イテイル

ココデヤメタラ 男ガスタル 男 晋三 戦争道 ムリヲ 承知ノ 戦争道

戦争は平和—平和は戦争？ 戦争は平和—平和は戦争

戦争は平和—平和は戦争？ 戦争は平和—平和は戦争

どちらもおんなじかっ？ いやそんなはずないだろうっ

・・・提供は「25時行動委員会」でした！

「首相談話」に抗い、呼びかける（呼びかけ文）

アジア・太平洋戦争敗戦から70年、私・たちは自らが植民地支配と侵略戦争で大きな被害を与えたアジアからの声に耳を塞いできました。首相談話はその姿勢を全く変えないでしょう。

しかし私・たちはそれに抗い、列島をアジアに開きたい。今こそアジアの人々に対して真摯に応答する時です。それは反省—謝罪—補償を行って来なかったことを自覚し、自らの歪んだ自尊心をアジアの人々に晒すことに他なりません。その恥を晒す経験を通してのみアジアと共に生きていくことができるのです。

アジアと共に生きる社会を、この列島に共に創り出していきましょう。

コール（デモをしながら時々全員で）

① 戦—争—法—制 未来なし！ — 戦—争—法—制 未来なし！

- ② 日米—安保—粉—砕！ — 日米—安保—粉—砕！
- ③ 積極的—平和主義はナンセンス！ — 積極的—平和主義はナンセンス！
- ④ アベと—の心中—はゴメンダぞっ！ — アベと—の心中—はゴメンダぞっ！
- ⑤ 辺野古の基地化に大反対！ — 辺野古の基地化に大反対！
- ⑥ 沖縄から—基地をど—け—ろ—！ — 沖縄から—基地をど—け—ろ—！
- ⑦ ゴーマン・ギマン・アベのジゴマンにNONONO!
— ゴーマン・ギマン・アベのジゴマンにNONONO!
- ⑧ 恥ずかしや—ああ恥ずかしや—アベのウソ— 恥ずかしや—ああ恥ずかしや—アベのウソ
- ⑨ 戦—争で平—和はつくれな—いっ！ — 戦—争で平—和はつくれな—いっ！

2015-8-29 資料

はじめに

「ご通行中の皆さん、こんにちは。わたしたちは『25時行動委員会』です。今安倍政権は、積極的平和主義を唱え、憲法違反の安保法制を今国会で・・・」「あっあれ？電波が混線しています、電波ジャックされました。なんじゃこりや・・・」

「改訂版 積極的平和主義」（歌：街宣用バージョン）

積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義

安保法制は戦争法制—戦争法制は平和法制 安保法制は戦争法制—戦争法制は平和法制

どちらもおんなじかっ？ いやそんなはずないだろうっ

戦争は平和—平和は戦争？ 戦争は平和—平和は戦争？

どちらもおんなじかっ？ いやそんなはずないだろうー

積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義

ガッコで習った れ—きし 歴史 それより重—い 背中のダイモン

山口出身ねえー じっちゃん譲りの歴史観！

も何もなかったって？ 新生につぼん帝国万歳！

そっそりやチョットまずいんじゃないの— じっちゃんこれで いいんだよね—

「厚顔無恥は力なり」ってか？ いやいやいやそんなはずはないだろうー

積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義 積極的 平和主義

地球儀外交ナンチャッター 玉乗り 玉乗り 地球に玉乗り

わては何処でも行けませー でもアメリカさんの一—顔色観てなあ—

オットイケネエ 勝手な真似は アメリカさんどうも すみませーん

自由は服従—服従は自由？ 自由は服従—服従は自由？

どちらもおんなじかっ？ いやいやいやそんなはずないだろうー

お前誰かに 狙われてんの？ まあそういうことを仮定してだね

お前誰かに 嫌われてんの？ まあ、そういうこともあったわな

お前誰かに 謝罪しないの？ それが いろいろあってねえ



お前誰かに 守られてんの？ それが そうでもないみたい
お前 隣と 話してみたか？ …… 話せてない

「だったら、アジアの平和をつくるには、アメリカじゃなくて、自分の言葉が大事なんじゃないの？」 ……

トントンツ トントントン それが

積極的平和主義 = 二枚舌 の平和主義？

積極的平和主義 = アメリカに預けた平和主義？

積極的平和主義 = 先制攻撃の平和主義？

積極的平和主義 = どうせなら 平和的 積極主義にしたほうが うまくいくんじゃないの
ドン！ ……ダメだこりゃ!!

「私・たちの告知」〈後註〉補遺

先の「通信4」に「私・たちの告知」への〈後註〉を掲載したが、なお記したりない・記しわすれたことがあるので、補遺する。

+ 「私・たちの告知」でその手になる「器物－高麗」の一部を〈引用〉した中村稔は、この7月に「私の日韓歴史認識」（青土社）を刊行している。今後そこから得られるものを生かすことにさらに努めたい。

+ 「私・たちの告知」で「他者としてのアジア」という問題にふれたが、この問題を考える過程で触れた下記のを挙げそこねたので、補遺する。－子安宣邦「「アジア」はどう語られてきたか」（藤原書店 2003）・同「日本人は中国をどう語ってきたか」（青土社 2012）

+ 構築すべき「列島社会」の構想については、オルタナティブ提言の会編著「根本から変えよう！－もうひとつの日本社会への12の提言」（樹花舎 2011）参照

25時行動委員会 : 今後の企画－2015・秋

+ パフォーマンス: 「積極的平和主義」改訂版 ～8月29日

+ ワークショップ: 〈ピープル〉の創り方 ～9月13日

+ トークセッション: 「武藤提起を受けて」 ～秋

「私・たちの告知」でぶつかった問題

～「憲法とは逆に憲法から」 ～秋